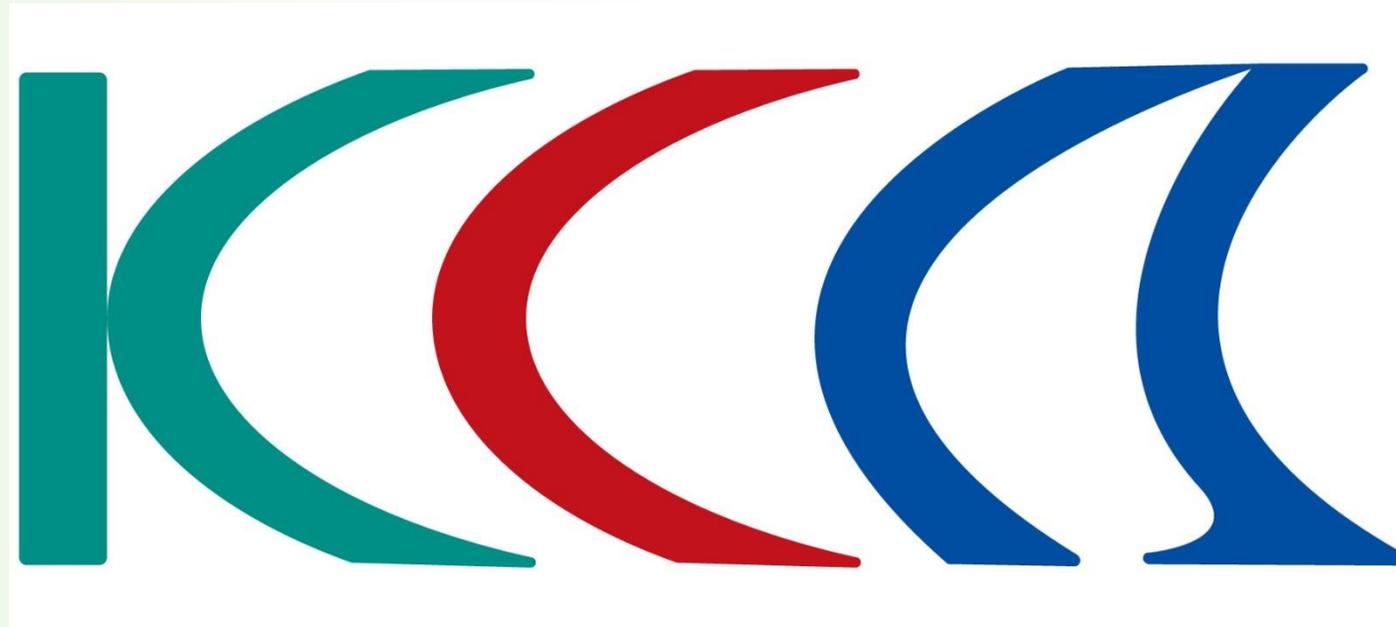


2018年3月期決算説明



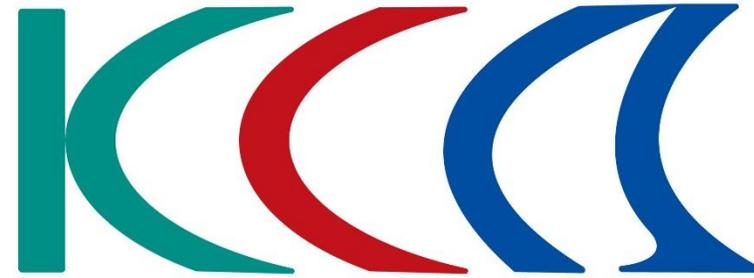
平成30年5月24日

片倉コープアグリ株式会社

会社概要

| | |
|----------|--------------------|
| 設立 | 大正9年（西暦1920年）3月14日 |
| 本社所在地 | 東京都千代田区九段北1-8-10 |
| 資本金 | 4,214百万円 |
| 従業員数 | 629名（単体） |
| 発行済株式の総数 | 10,162千株 |
| 株主数 | 6,972名 |
| 上場証券取引所 | 東証一部 |





”たわわに実った農作物のしなり” のイメージをモチーフしてデザインしました。
確かな技術で未来を創造していく企業をイメージしています。

■ : 作物や農業

■ : 情熱、力強さ、太陽

■ : 地球、水、空、大自然

**基本理念
行動規範**

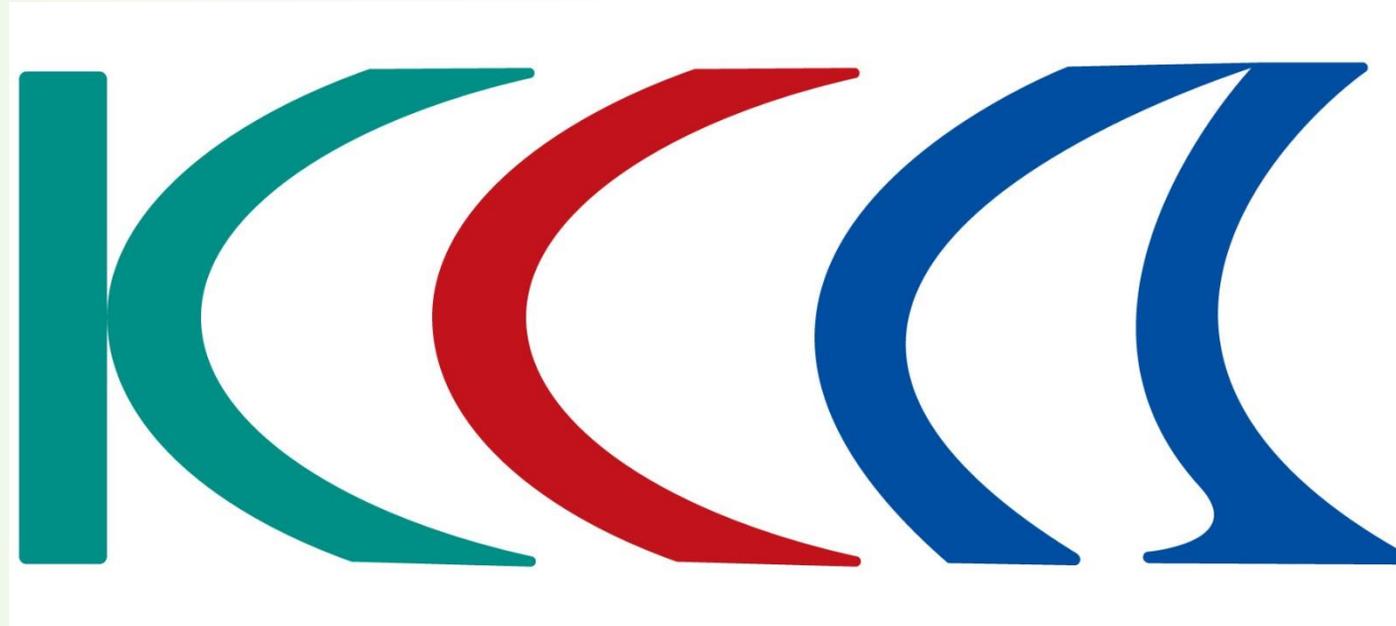
企業活動を通して社会に貢献する

- ・ 創造と挑戦
- ・ 安全と安心
- ・ 公明正大
- ・ 明朗闊達

コーポレートメッセージ

稔り豊かな未来に貢献したい

2018年3月期



連結決算業績

2018年3月期 連結業績サマリー

単位：百万円

| | '17/3 | '18/3 | 増減率 ('18/'17) |
|------------|--------|--------|--------------------|
| 売上高 | 38,657 | 37,335 | ▲3.4% |
| 売上総利益 | 6,701 | 7,094 | 5.8% |
| 営業利益 | 604 | 1,225 | 102.8% |
| 経常利益 | 610 | 1,281 | 110.0% |
| 当期純利益 | 508 | 1,071 | 110.9% |
| 一株当たり当期純利益 | 50.27円 | 106.3円 | 111.45円 |

'18/3 利益（'17/3対比）：

・肥料事業において前年2度にわたる大幅値下げが大きく影響したことや、化学品事業、その他の事業においても減収となったことで売上高は減少、一方で、利益面では肥料事業において原価率の良化、経費の圧縮に努め増益となった。

連結貸借対照表増減

資産合計
(百万円)

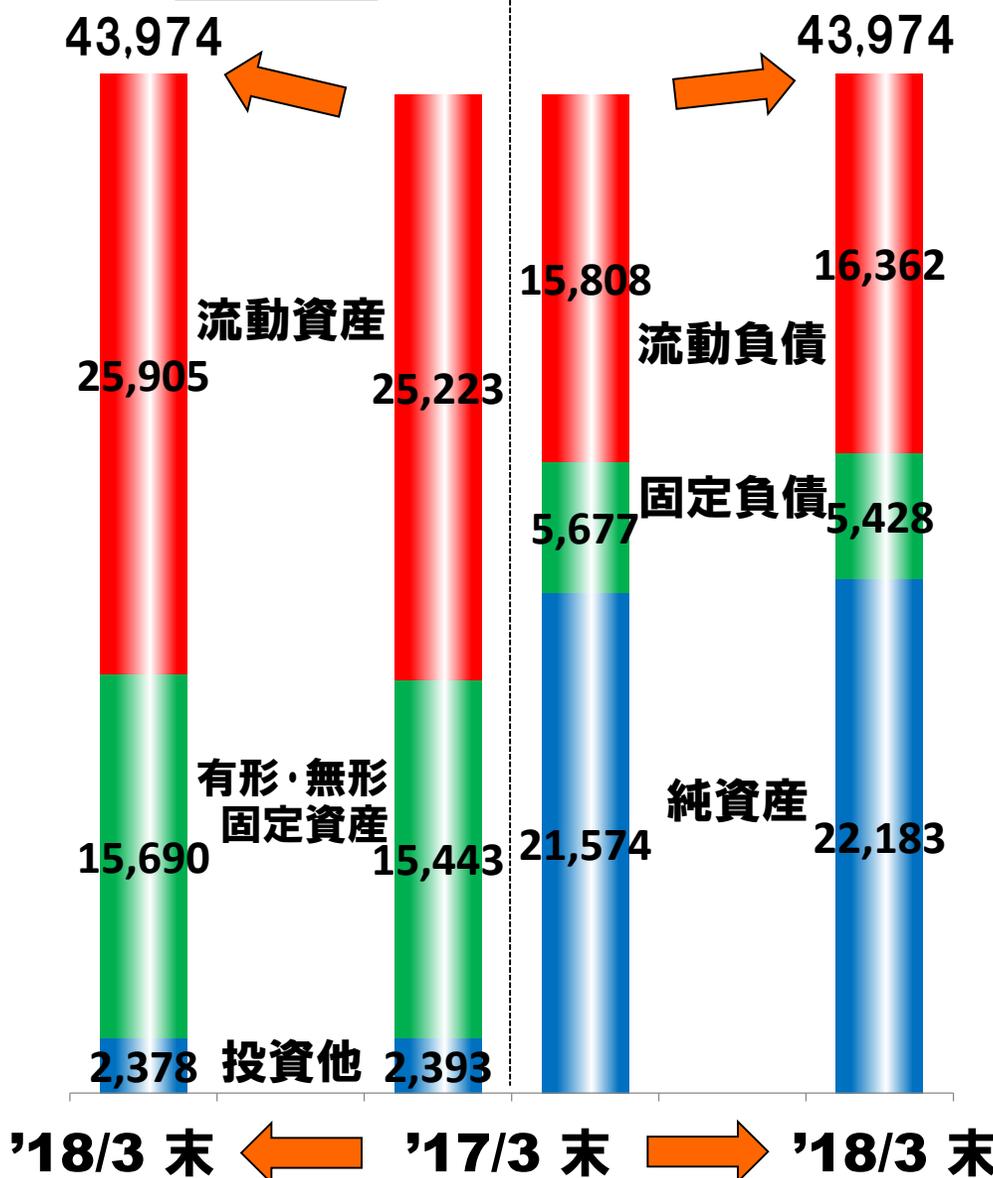
▲1,107 43,061

負債純資産合計
(百万円)

+682
 主な要因
 ・商品及び製品 +519
 ・現金及び預金 +457
 ・受取手形及び売掛金 ▲605

+247
 主な要因
 ・機械及び車両運搬具 +206

▲15
 主な要因
 ・投資有価証券 ▲18



+554
 主な要因
 ・支払手形及び買掛金 +202
 ・未払法人税等 +594

▲249
 主な要因
 ・長期借入金 ▲482
 ・退職給付に係る負債 +229

+609
 主な要因
 ・利益剰余金 +668
 ・自己株式 ▲58

主要経営指標

| | '16/3 | '17/3 | '18/3 |
|--------------------|----------|----------|----------|
| 資本金（百万円） | 4,214 | 4,214 | 4,214 |
| 総資産（百万円） | 44,168 | 43,061 | 43,974 |
| 純資産（百万円） | 21,241 | 21,574 | 22,183 |
| 有利子負債（百万円） | 8,761 | 8,288 | 7,591 |
| ネット有利子負債（百万円） | 4,825 | 3,998 | 2,844 |
| 1株当たり純資産（円） | 2,096.42 | 2,129.73 | 2,199.55 |
| 1株当たり配当額（円） | 40.00 | 40.00 | 40.00 |
| 株主資本比率（%） | 48.0 | 50.0 | 50.4 |
| 株主資本当期純利益率（%）（ROE） | 9.1 | 2.3 | 4.8 |
| 総資産経常利益率（%）（ROA） | 3.0 | 1.4 | 2.9 |
| 配当性向（%） | 15.1 | 79.6 | 37.6 |

連結キャッシュ・フロー

単位：百万円

| | '17/3 | '18/3 |
|-----------------------|---------------|---------------|
| 営業キャッシュフロー | 3,381 | 2,967 |
| 税金等調整前当期純利益 | 547 | 1,465 |
| 減価償却費 | 1,247 | 1,234 |
| 売上債権の増減額(増加:▲) | 1,719 | 608 |
| たな卸資産の増減額(増加:▲) | 1,270 | ▲821 |
| 仕入債務の増減額(減少:▲) | ▲893 | 212 |
| 法人税等の支払額又は還付額(支払:▲) | ▲93 | ▲29 |
| その他 | ▲416 | 298 |
| 投資キャッシュフロー | ▲2,105 | ▲1,246 |
| 財務キャッシュフロー | ▲928 | ▲1,243 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 4,203 | 4,680 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | 348 | 477 |

主な要因として

- ・有形固定資産の取得 ▲1,551
- ・有形固定資産の売却 +410

主な要因として

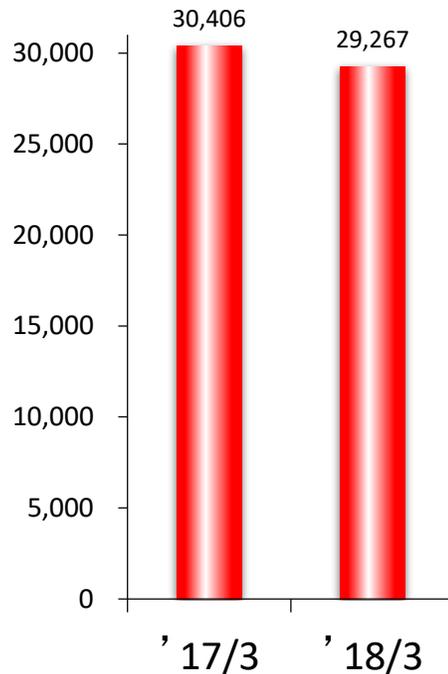
- ・長期借入金の返済 ▲676
- ・配当金の支払額 ▲402

連結業績 セグメント別

<肥料事業>

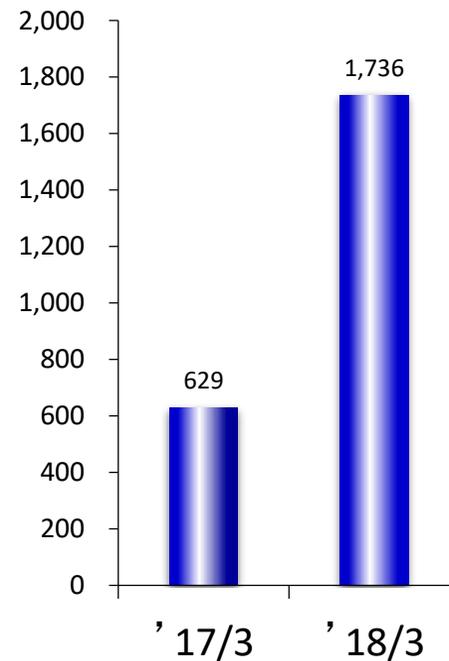
売上高

(百万円)



セグメント利益

(百万円)



事業環境

- ・政府「農業競争力強化プログラム」策定
- ・全農「集中購買方式」による購入の実施
- ・農家の高齢化等により需要減少傾向

当社の取組み

- **提案型営業活動**
得意とする有機肥料や微生物資材等の開発とお客様への積極的な提案。
- **生産・販売体制の効率化・強化**
徹底したコストの見直しと削減

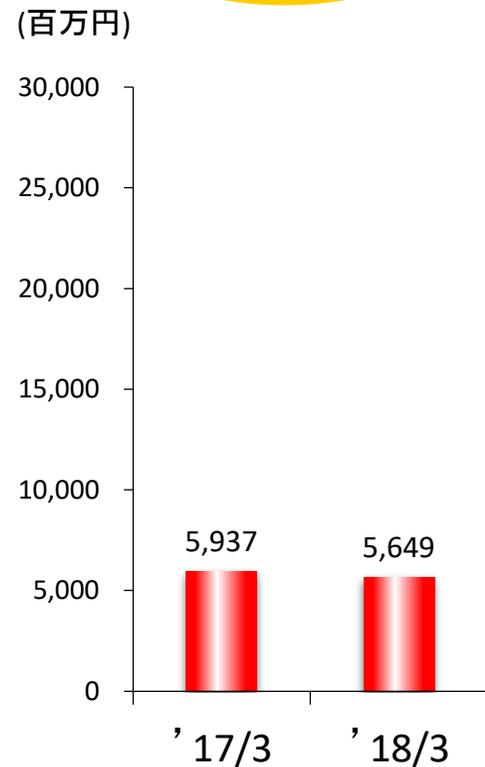
- ・前年、2度にわたる大幅値下げ（20%減）の影響により売上高の減少
- ・徹底したコストの見直しと削減により原価率の良化

セグメント利益 1,736百万円

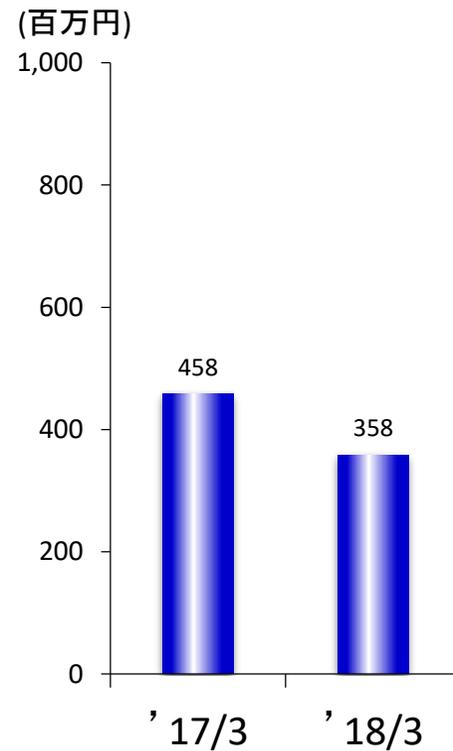
連結業績 セグメント別

<化学品事業>

売上高



セグメント利益

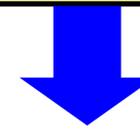


◎化粧品事業

- ・化粧品原料 販売数量の減少

◎化成品事業

- ・工業用リン酸 原価率の上昇

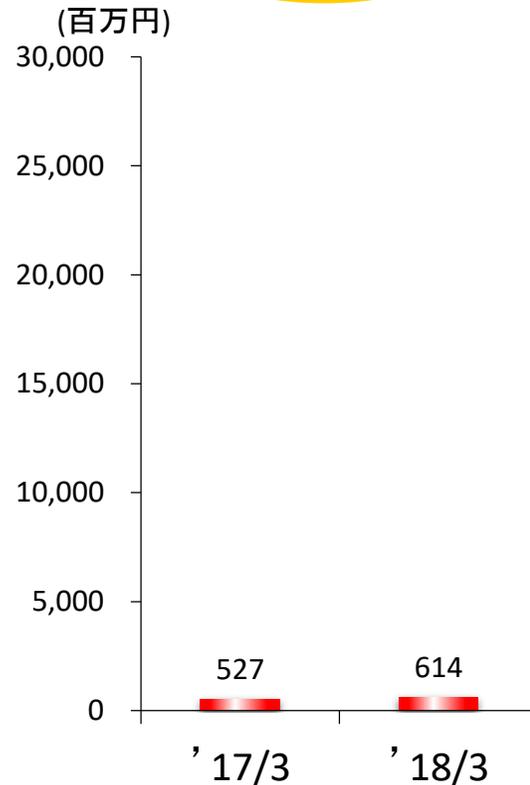


セグメント利益 **358**百万円

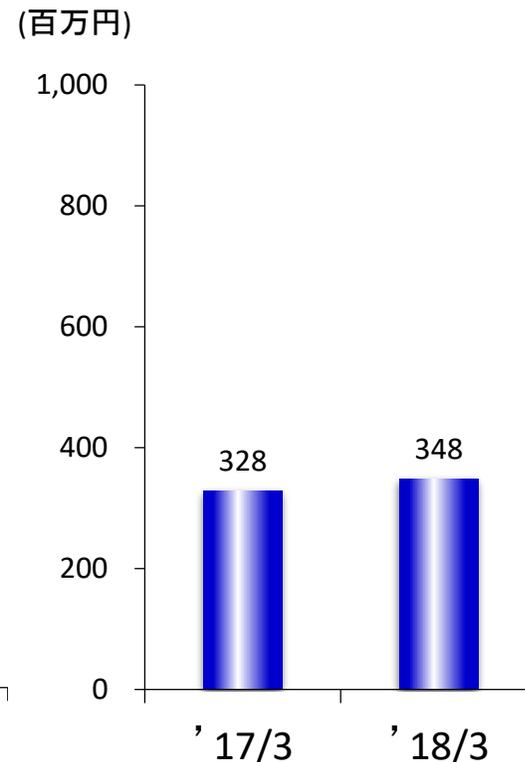
連結業績 セグメント別

<不動産事業>

売上高



セグメント利益



安定的な利益確保

KCA・アクロスプラザ大分駅南の
開業に伴う賃料収入増

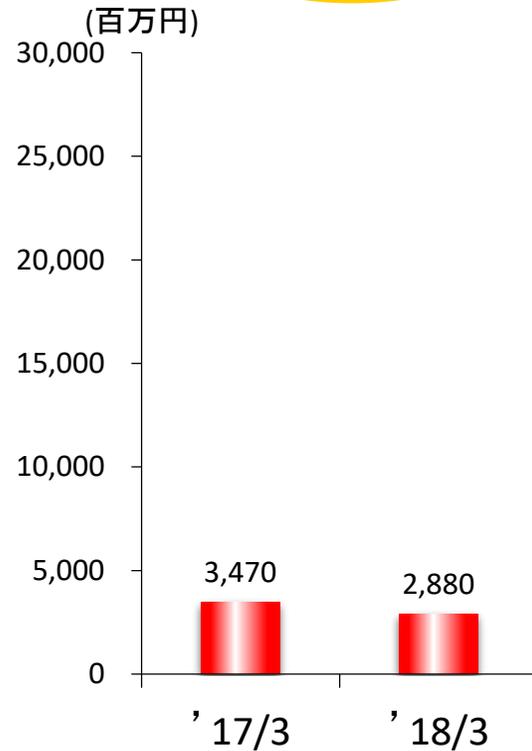


セグメント利益 **348**百万円

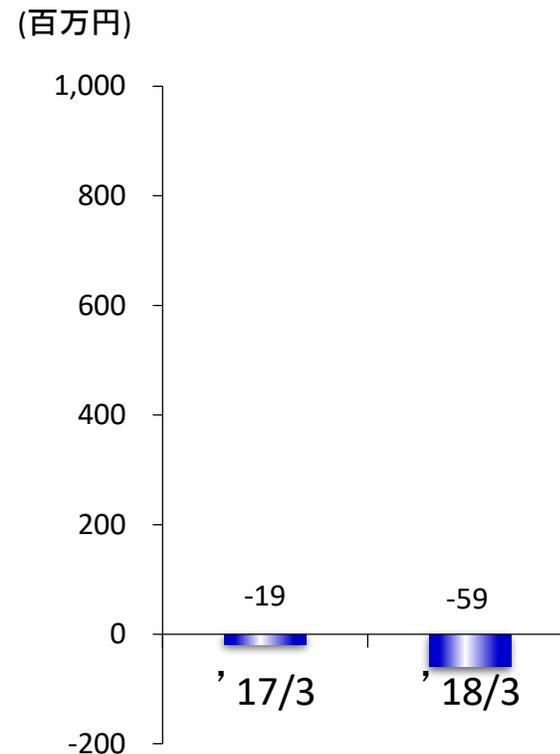
連結業績 セグメント別

<その他の事業>

売上高



セグメント利益



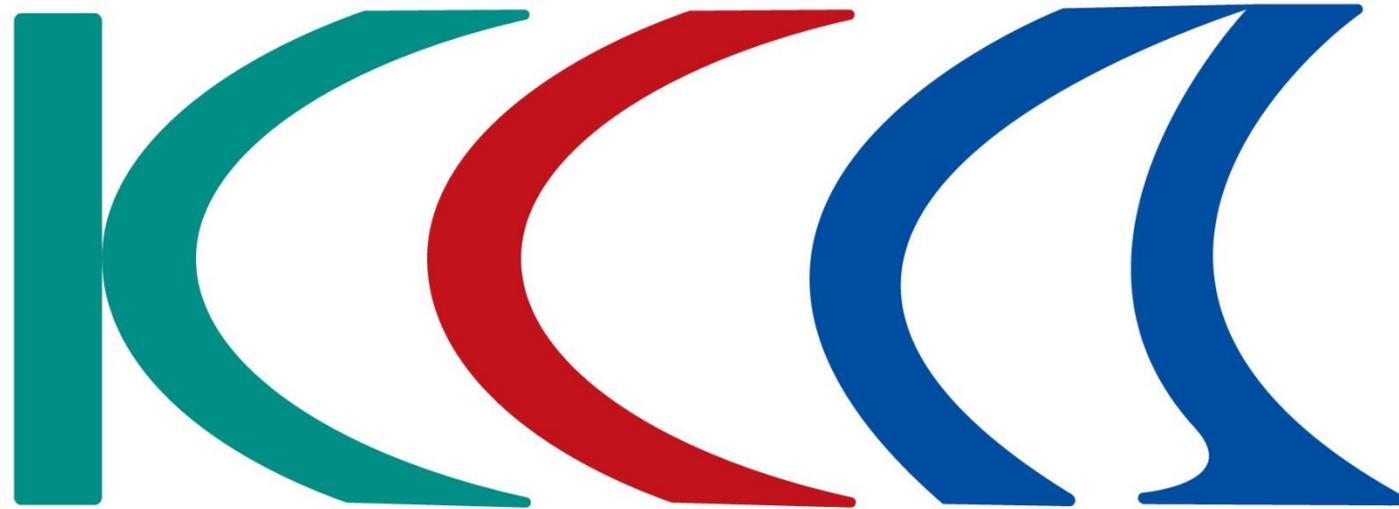
◎その他の事業

- ・プラント施行事業の受注の減少、食品農産物事業での原価率の上昇



セグメント損失 59百万円

農業及び肥料業界 を取り巻く状況



農業及び肥料業界を取り巻く状況

(1) 農業競争力強化プログラム

[資料: 農林水産省]

農業者の所得向上を図るためには、農業者が自由に経営展開できる環境を整備するとともに、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決していくことが必要である。

このため、生産資材価格の引下げや、農産物の流通・加工構造の改革をはじめ13項目について取り組み、更なる農業の競争力強化を実現する。

生産資材価格の引下げ(肥料、農薬、機械、飼料など)

- 国際水準への価格引下げを目指す
- 生産資材業界の業界再編の推進
- 生産資材に関する法規制の見直し
- 国の責務、業界再編に向けた推進手法等を明記した法整備を推進

(2) 農業競争力強化プログラムと全農の対応

「農業競争力強化プログラム」を受け、全農は肥料分野において、競争入札等を中心とする購買方式への抜本的転換、WEB受注システムの構築、銘柄集約等の具体策を以下の通り決定。

○肥料の銘柄集約と集中購買方式の導入

約400銘柄あった一般的な高度化成やNK化成を17銘柄に集約し、その集約銘柄を事前予約により数量を積み上げ生産メーカーへ入札する方式。その結果、集約銘柄は基準価格より概ね▲1～3割の価格引下げとなった。

○BB肥料の取扱拡大

これまで、BB肥料については工場のある県内での流通が中心だったが、物流条件を整備し、全国に取扱を拡大していく。

○輸入化成の本格的取扱

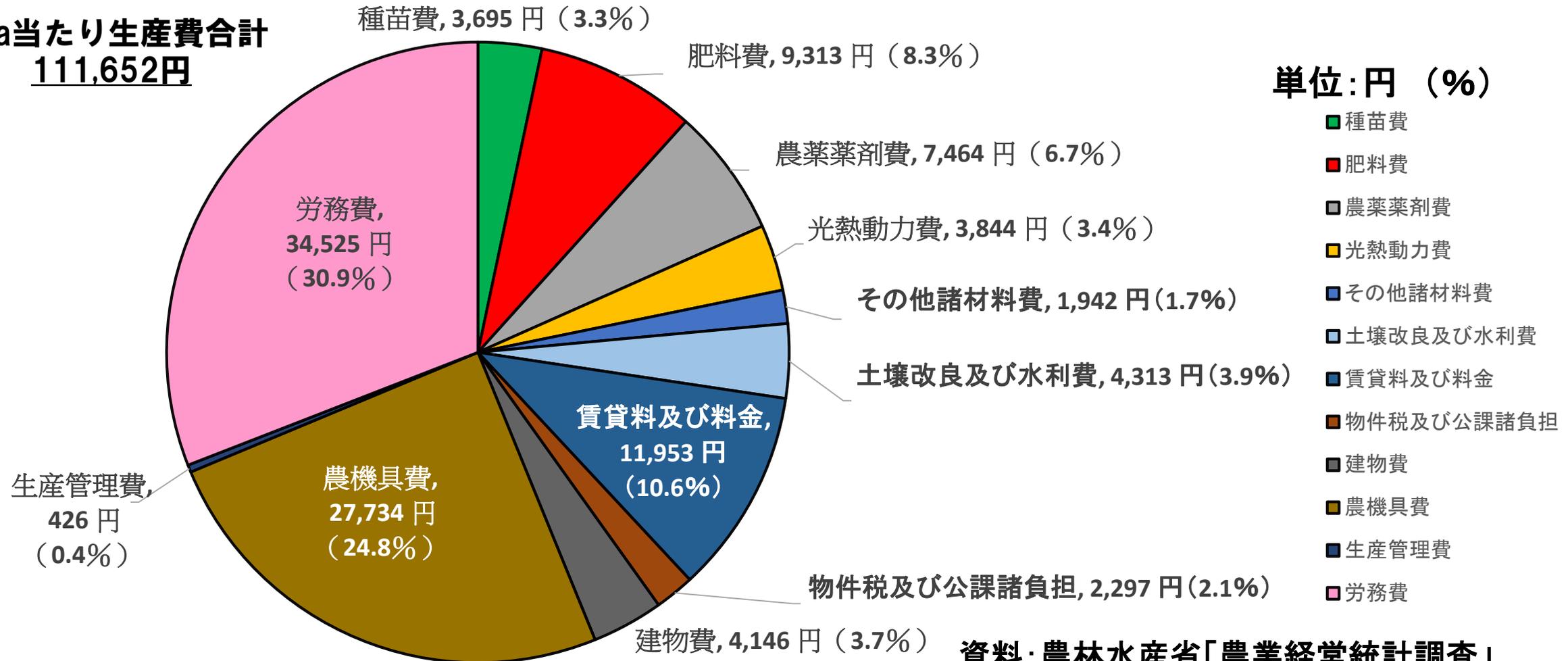
海外で流通している安価な化成肥料を、コンテナ単位(20トン)で生産者から注文を取りまとめて海外メーカーに発注し、コンテナで輸入、港湾から直行供給を行うことで、割安な価格設定を実現する。

農業及び肥料業界を取り巻く状況

(3)米の生産費

平成28年度 米の生産費(販売農家10a当たり)

10a当たり生産費合計
111,652円



農業及び肥料業界を取り巻く状況

(4)国内肥料の流通実績

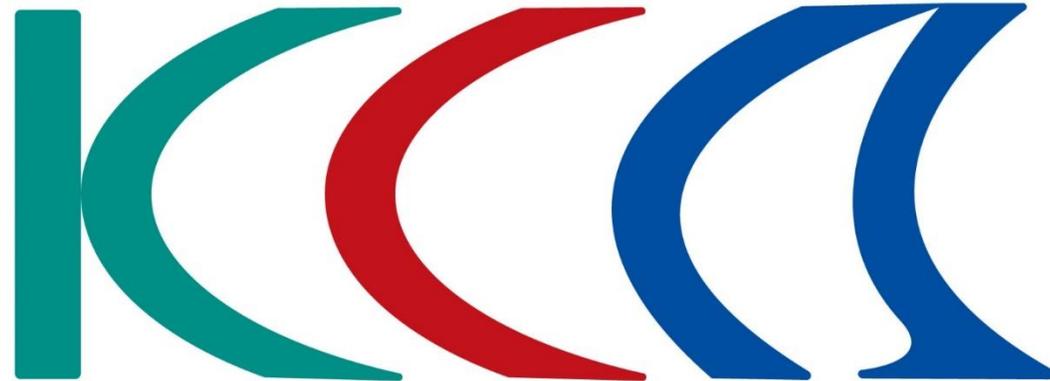
単位:トン

| 品目 | 平成25肥年度 | 平成26肥年度 | 平成27肥年度 | 平成28肥年度 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 高度化成 | 802,000 | 809,000 | 777,000 | 810,000 |
| 普通化成 | 209,000 | 203,000 | 195,000 | 205,000 |
| NK化成 | 35,000 | 35,000 | 30,000 | 35,000 |
| 液状肥料 | 35,000 | 32,000 | 33,000 | 33,000 |
| 成形複合 | 25,000 | 19,000 | 19,000 | 19,000 |
| 配合 | 726,000 | 710,000 | 683,000 | 712,000 |
| 合計 | 1,832,000 | 1,808,000 | 1,737,000 | 1,814,000 |

[資料: 日本肥料アンモニア協会]

中期経営計画

(2018-2020年度)



平成30年5月

片倉コープアグリ株式会社

基本理念

企業活動を通して社会に貢献する
稔り豊かな未来に貢献したい

行動規範

創造と挑戦

私たちは、新たな価値を創造し、その実現に向けて挑戦します。

安全と安心

私たちは、安全で安心な優れた商品とサービスをお届けします。

公明正大

私たちは、高い倫理観をもって、公明正大な企業活動を進めます。

明朗闊達

私たちは、働きがいのある明るく闊達な職場をつくります。

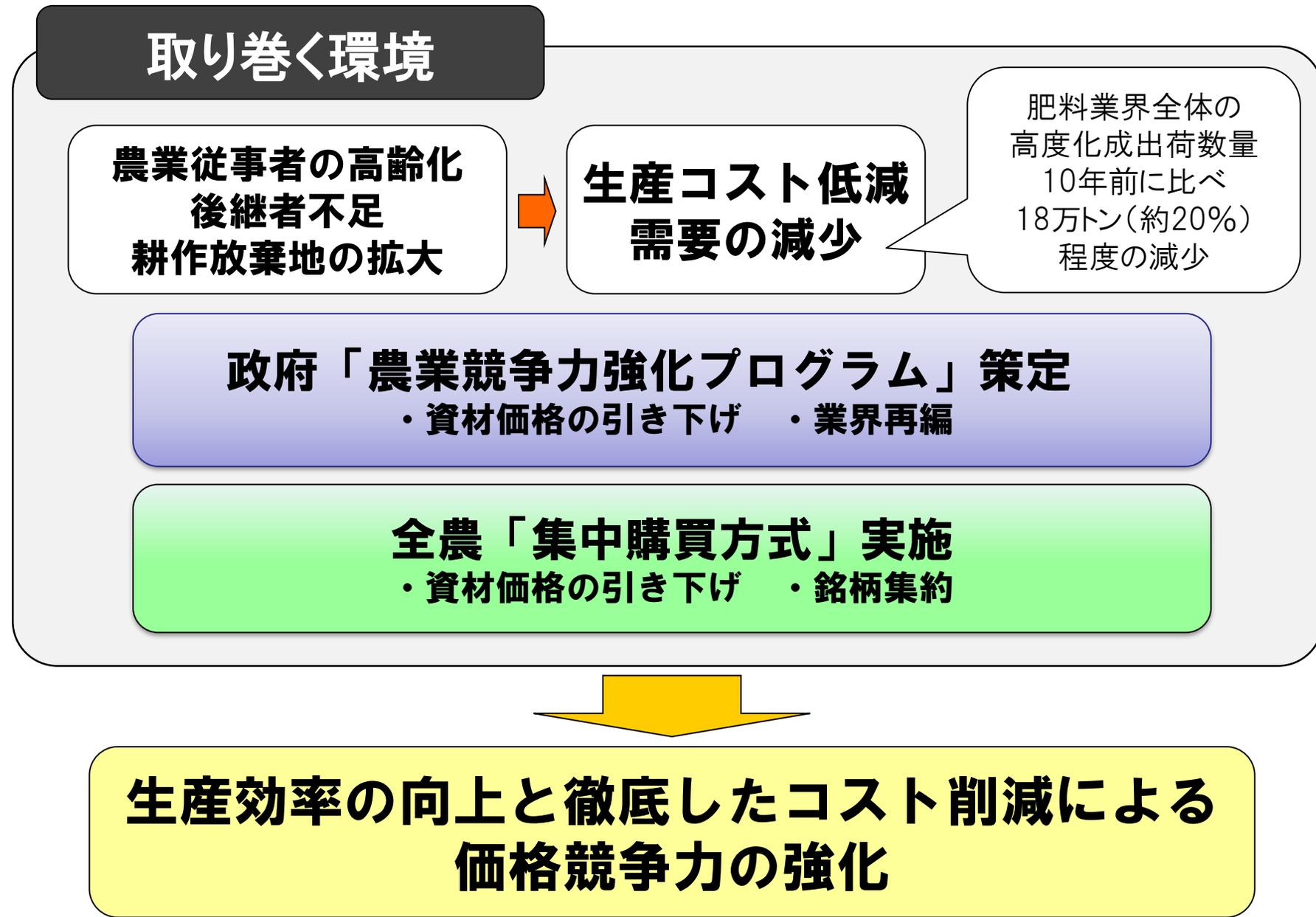
企業像

農業情勢や経営環境の変化に的確に対応することが求められるなか、統合効果をさらに追及し競争力を強化します。

2020年に創立100周年を迎え、

- ① 研究開発型企业
- ② 地域貢献型企业
- ③ 環境共生型企业

として、真に顧客から信頼される存在感のある企業を目指します。



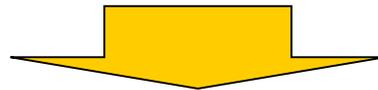
計数目標

(単位：百万円,%)

| | '17/3 (2016年度) | '18/3 (2017年度) | '19/3 (2018年度) | '20/3 (2019年度) | '21/3 (2020年度) |
|---------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 売上高 | 38,657 | 37,335 | 39,000 | 39,500 | 41,000 |
| 営業利益 | 604 | 1,225 | 1,300 | 1,500 | 2,100 |
| 当期純利益 | 508 | 1,071 | 800 | 1,000 | 1,400 |
| (参考) | | | | | |
| 営業利益率 | 1.6 | 3.3 | 3.3 | 3.8 | 5.1 |
| 投資実績・計画 | 2,830 | 1,660 | 3年間で90億円 | | |

基本的な考え方

| | | |
|-----|------------------|--|
| 肥料 | ◆シェアの拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・長年の歴史と伝統に裏付けされた技術力 ・消費地に密着した事業拠点を活かした営業活動 |
| | ◆価格競争力の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ・全社をあげた業務の効率化 ・徹底的なコスト削減 |
| 化学品 | ◆新たなビジネスフィールドの拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ・化粧品原料、無機素材品の海外展開 ・植物関連の醗酵工場を活用した新たな製品の開発・販売 |
| 海外 | ◆中国市場への展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・中国との合弁企業による微生物資材の製造、販売、土壌診断の実施 ・その後この取り組みを活用し、他の資材の販売を展開 |



**2020年に創立100周年を迎え
次世代にふさわしい企業基盤構築を目指す**

資本政策の基本的な方針

当社は、持続的な成長と企業価値の向上を図るため、資本効率の向上と財務健全性とのバランスを確保することを資本政策の基本方針といたします。

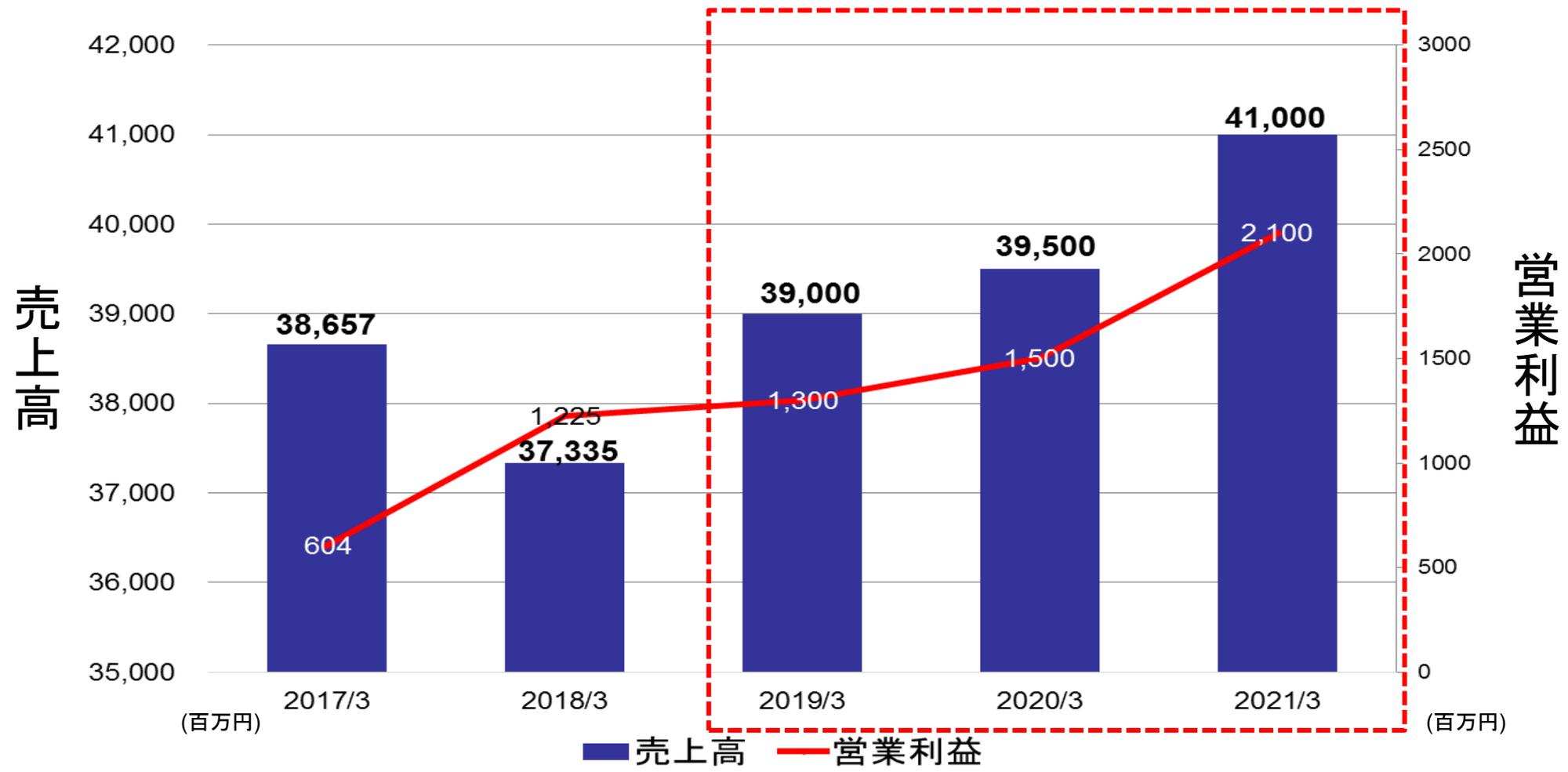
株主資本当期純利益率(ROE)を資本効率向上の重要な指標ととらえ、新規事業分野への投資、付加価値の高い製品の開発、効率的な生産・販売体制の構築を追求し、連結当期純利益の増大を図り、株主資本当期純利益率(ROE)の向上を図ってまいります。

また、株主に対する利益還元を経営の重要政策と位置づけ、安定的かつ継続的に業績に見合った成果の配当を行うことを基本とし、配当性向50%を目標とします。さらに、キャッシュ・フローの状況、投資動向、株価の状況を勘案し自己株式の取得も株主還元の選択肢として検討してまいります。

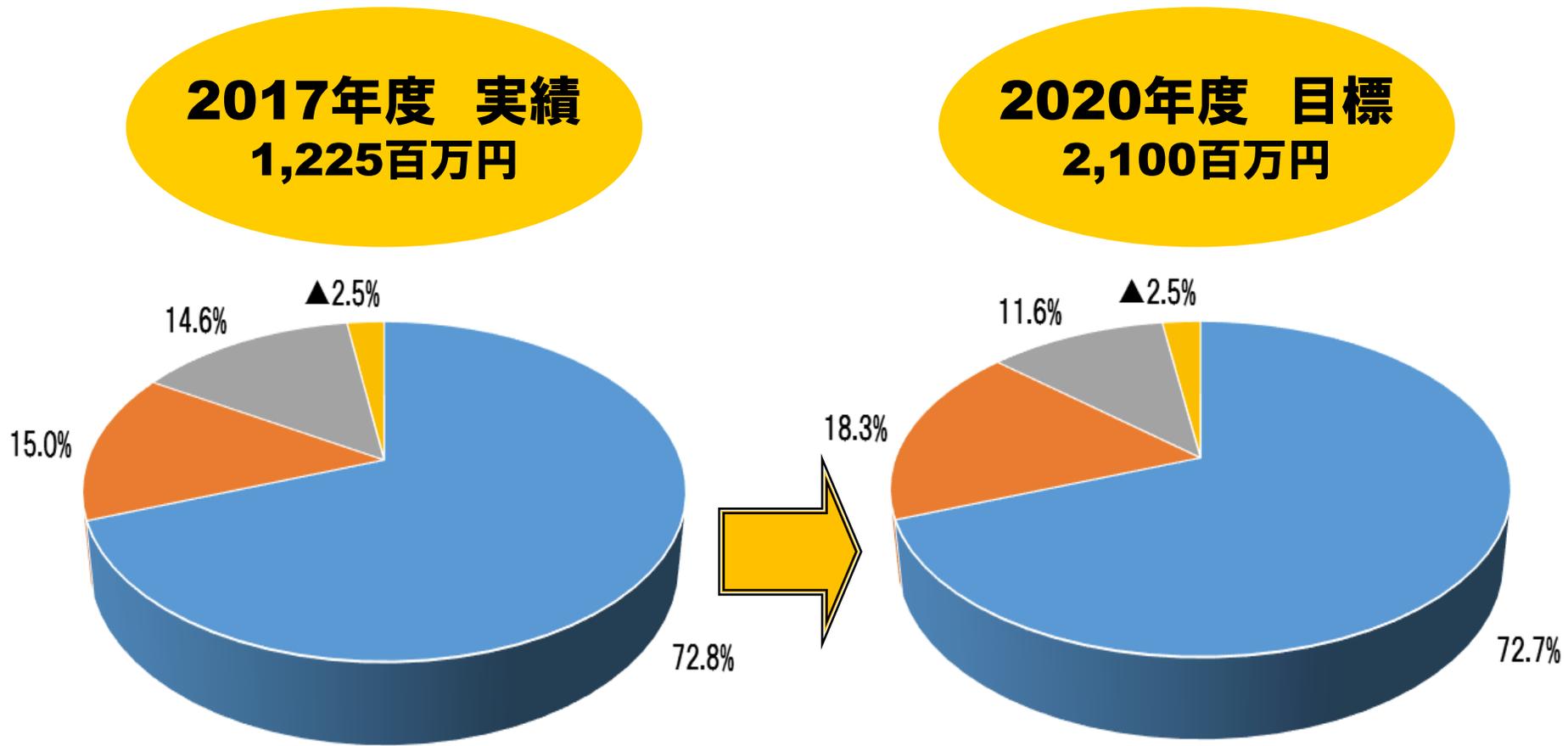
計数(参考)

| | 2017年度 実績 | 2020年度 (最終年度) |
|--------|--------------|------------------|
| 総資産 | 439億円 | 490億円 |
| 純資産 | 221億円 | 230億円 |
| 株主資本比率 | 50.4% | 46.9% |
| ROE | 4.8% | 6.0% |

売上高および営業利益推移



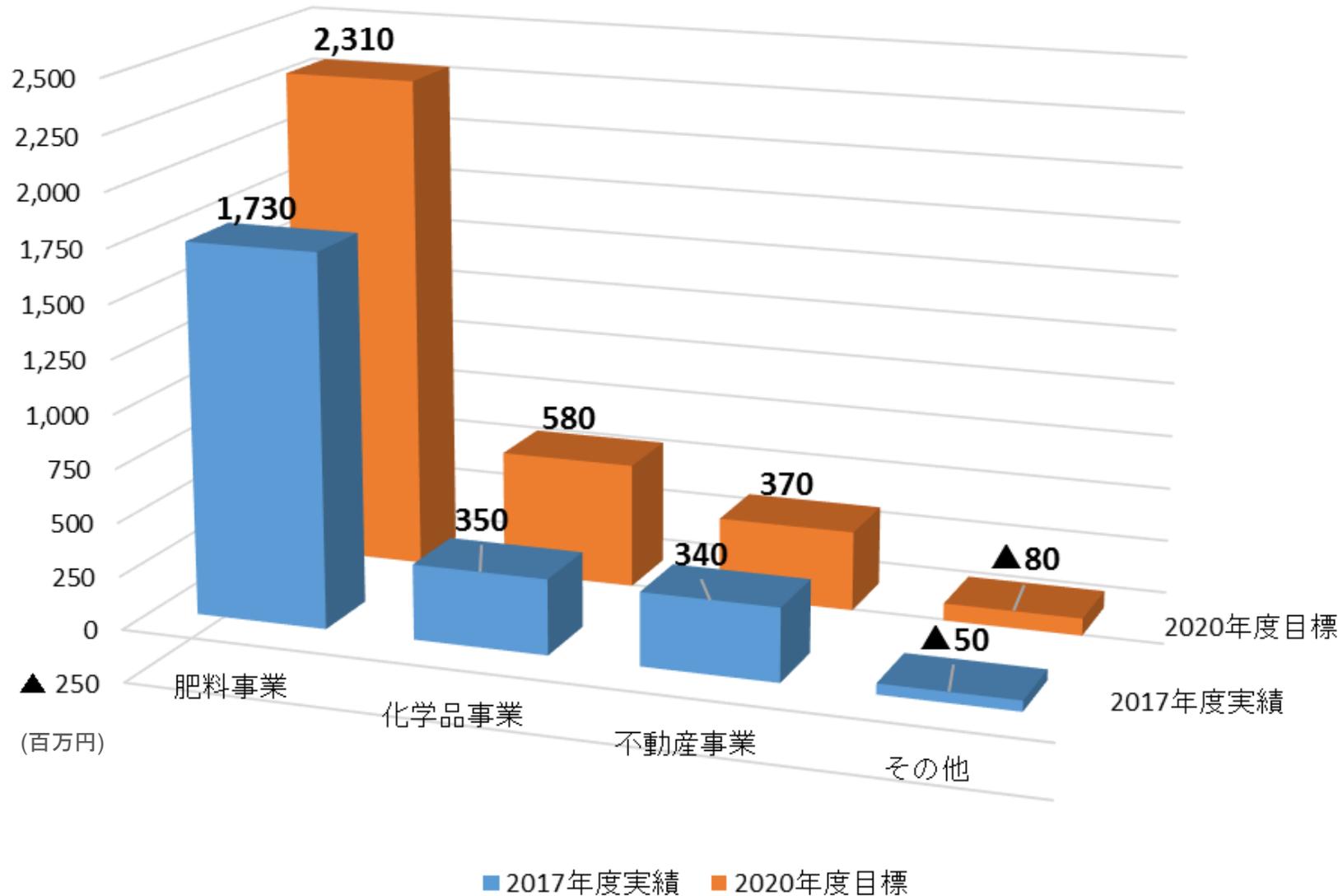
セグメント利益構成比



■肥料事業 ■化学品事業 ■不動産事業 ■その他

■肥料事業 ■化学品事業 ■不動産事業 ■その他

セグメント利益



施策 ①コア事業である肥料事業の強化

・IT技術を活用したスマート農業に対応した技術開発

- ・無人ヘリ・ドローン散布による可変施肥技術などに対応した専用肥料の開発と普及

・「有機」に強い会社としての特徴商品の開発

- ・未利用資源の探索や独自原料の活用による商品群のラインナップ強化とその利活用場面の拡大

・土壌微生物に関連した研究開発の促進

- ・土壌の微生物性診断と微生物利用技術の活用による作物生産への支援・提案機能の拡充

施策 ②化学品事業の拡販と収益力向上

| | |
|----------------------|--|
| 有機素材部 | <ul style="list-style-type: none">・化粧品原料の海外展開をより一層強化・新設した植物醗酵工場を活用し、新たな製品の開発・販売 |
| 無機素材部 | <ul style="list-style-type: none">・機能性用途に注力した製品開発と提案力強化・海外市場への本格的な展開 |
| 化成品部・ 飼料部 | <ul style="list-style-type: none">・低廉な原料確保により顧客への安定供給に尽力・新規取引先への拡販 |

施策 ③その他の事業の拡販と収益力向上

海外事業

◆平成30年2月に中国との合弁会社
「片倉(上海)農業科技有限公司」を設立。

- ・中国国内の微生物資材の製造・販売と土壌診断を実施
- ・その後この取り組みを活用し、他資材の販売を展開



当社グループの組織力の向上

(1)コンプライアンスの徹底、リスク管理の強化等に努め、より信頼性、透明性の高い経営に向けて引き続き整備していきます。

(2)社員の力をより一層発揮するための人材育成に努め、明朗闊達な企業風土の確立を図ります。

稔り豊かな未来に貢献したい
<http://www.katakuraco-op.com/>

本資料に記載されている、当社又は当社グループに関する業績見通し等、将来に関する記述については現時点で、入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際に業績は今後さまざまな要因やリスクによって異なる結果となる可能性があります。